

カンボジア通信

カンボジア教育支援基金 (KEAF-Japan) 会報

2014年 12月 73号

〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10-5
JICA地球ひろば気付

カンボジア教育支援基金事務局

info@keaf-japan.com
http://keaf-japan.com



8年目入り、多角化した支援活動

円安が小さな財政を圧迫—総会報告

カンボジア教育支援基金は10月26日(日)、東京・新宿区市谷のJICA地球ひろば会議室で第16回総会を開き、2014年度(2013.9-2014.8)活動報告、同収支決算報告、および2015年度(2014.9-2015.8)活動計画、同収支予算の承認を得ました。

14年度活動報告は会報「カンボジア通信」で会員や支援者の皆さんに報告してきた通りです。14年度収支決算は2頁に、15年度収支予算は3頁にそれぞれ掲載しました。15年度活動計画はこれまで通り、奨学金、教科書・教材支援を中心にします。「教室」は財政面からみて「サッカー教室」だけに絞りました。

高齢者のボランティア・グループであるKEAFがスタートしてから15年度で8年目に入りました。総会では、ちょっと立ち止まって振り返りながら、先行きを考えたとい、以下の報告をしました。

▽奨学生は30人から181人に

2008年度(2007-8)の高校生41人から始まり、51(09年度)、68(10年度)、84(11年度)、90(12年度)、106(13年度)と増え、14年度に高橋基金をもらって30人増の136、15年度にはさらに30人増の166になります。

2010年度、大学進学者1人に卒業までの4年間の奨学金を出すことにしました。12年度には大学生のための楓基金を頂いて毎年2人に。13年度からは2年制教員養成所学生に毎年4人の枠を設けました。2015年度には奨学生の総数は181人になります。

楓基金：楓奨学生は14年度から枠を年間1人に戻したので、15年度7人、16年度6人となり、基金はほぼ全額を使い切ることになります。17年度の5人分からKEAF独自の奨学金を当てることになります。

高橋基金：高校生奨学金は高橋基金とKEAFの一般奨学金を組み合わせています。高橋基金の枠は、高校生が1学年24人、3年間で72人。教員養成所学生は1学年4人、2年間で8人。12年度から15年度までに基金の4割を使いました。16年度以降は毎年、高校生81人、教員養成所学生8人となります。18年度までの3年間は、この枠内の奨学生を維持できます。



(写真) チョーチアル中学にできた図書室。所蔵図書はまだこれだけ。図書室支援に力をいれていきます。

▽いろいろな「教育支援」

教科書・教材支援：奨学金と支援活動の柱、教科書支援は7年間で1万冊を超えました。教材支援もノート、鉛筆から実験器具、辞書、副読本などへ多角化。

修学旅行：首都プノンペンに行ったことのない生徒がほとんどと知って、2008年度から3年間プロモルプロム高校の3年生を日帰りプノンペン修学旅行に。

日本語教室：2009～10年度は現地に長期ホームステイして日本語を教え、若者同士の交流を深めるボランティア教師(学生男女各1人)を派遣。2012年には奨学金を届けた訪問の機会にボランティアの川野さんと事務局の石山さんが日本語教室を開きました。

スポーツ支援：サッカー、バレーボール、バドミントンなど「スポーツ遊び」をしたい子どもが多いというので、こうしたスポーツ用具の支援も始めました。

2011年には東芝国際交流財団が助成金を出してくれたので、サッカー教室を始めました。学校や父兄にも大歓迎されているので、その後毎年、経費をやりくりしながら続けてきました。15年度も12月に4回目。

文化交流教室も：東芝財団の助成金を機に2011年から折り紙、綾とり、ケン玉などを子どもたちに教えて一緒に遊んだり、星を観る楽しさを教えたりする教室を始めました。2013年には監事の山田さんが紙芝居や絵本による文化交流の可能性を開いてくれました。

こうした支援を継続し、さらに広げたいのですが、アベノミクスによる円安が小さな財政を圧迫しています。

カンボジア教育支援基金 (KEAFJAPAN)

2014年度 収支決算報告書
(自 2013年9月1日 至 2014年8月31日)

(円)

収 入			支 出		
科目	決算	予算	科目	決算	予算
I. 一般支援活動	848,475	1,050,000	I. 一般支援活動	1,858,383	1,270,000
1. 会費・寄付合計	848,475	1,050,000	1. 教材支援	780,798	275,000
年会費	393,000	450,000	教材・教科書	494,340	226,000
寄付カンパ*(注)	841,321	820,000	補助教材・運動用品	0	23,000
*(注) 教育支援活動へ充当	△ 388,994	△ 220,000	雑費	286,458	26,000
雑収入	3,104		2. 支援活動費	726,849	663,000
受取利息	44		現地活動費	382,354	314,000
			渡航費補助	344,495	349,000
			3. 事務局運営費	350,736	332,000
			総会・理事会	8,800	9,000
			カンボジア通信	315,143	317,000
			諸経費	26,793	6,000
II. KEAF奨学金	225,000	220,000	II. KEAF奨学金	781,014	815,000
奨学金	225,000	220,000	高校生(136人×US\$50)	698,802	727,000
			教員養成(8人×US\$100)	82,212	86,000
			奨学金経費	0	2,000
小計(I+II)	1,073,475	1,270,000	小計(I+II)	2,639,397	2,085,000
III. 楓大学奨学資金	0	0	III. 楓大学奨学資金拠出	370,940	384,000
			大学生(7人×US\$500)	368,410	375,000
			楓奨学金経費	2,530	9,000
IV. 教育支援	588,994	220,000	IV. 教育支援	588,994	220,000
サッカー教室カンパ	200,000	0	日本語教室	0	
*(注) 一般支援活動寄付・カンパより充当	388,994	220,000	サッカー教室	392,208	220,000
			子供あそび教室	196,786	
収 入 合 計	1,662,469	1,490,000	支 出 合 計	3,599,331	2,689,000

2014年度 活動別基金増減表 (自 2013年9月1日 至 2014年8月31日)

(円)

	I. 一般支援活動	II. KEAF奨学金	III. 楓大学生奨学金	IV. 教育支援活動	合計
前期繰越高	1,376,423	3,016,333	1,168,141	0	5,560,897
当期収入	848,475	225,000	0	588,994	1,662,469
当期支出	1,858,383	781,014	370,940	588,994	3,599,331
次期繰越高	366,515	2,460,319	797,201	0	3,624,035

現金・預金		2014年8月31日現在 (円)
小口現金		26,650
小口現金 外貨		0
普通預金		58,102
郵便振替口座		3,539,283
合 計		3,624,035

2014年8月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する2014年度の収支を活動計画に基づき監査した結果、適正である事を認めます。

監 事

山 田 伸 代



カンボジア教育支援基金 (KEAFJAPAN)

2015年度 収支予算

(自 2014年9月1日 至 2015年8月31日)

(円)

収 入		支 出	
科目	予算	科目	予算
I. 一般支援活動	934,300	I. 一般支援活動	1,243,100
1. 会費・寄付合計	934,300	1. 教材支援	300,000
年会費	393,000	教材・教科書	250,000
寄付カンパ*(注)	841,300	補助教材	25,000
*(注) 教育支援活動へ充当	△ 300,000	雑費	25,000
		2. 支援活動費	592,400
		現地活動費	382,400
		渡航費補助 (2人x3回x35,000)	210,000
		3. 事務局運営費・諸経費	350,700
		総会・理事会	8,800
		カンボジア通信	315,100
		諸経費	26,800
II. KEAF奨学金	225,000	II. KEAF奨学金	1,021,200
奨学金	225,000	高校生 (166人xUS\$50x@112)	929,600
		教員養成(8人×US\$100x@112)	89,600
		奨学金経費	2,000
小計 (I + II)	1,159,300	小計 (I + II)	2,264,300
III. 楓大学奨学資金	0	III. 楓大学奨学資金拠出	394,600
		楓大学奨学金 (7人xUS\$500x@112)	392,000
		楓奨学金経費	2,600
IV. 教育支援活動	300,000	IV. 教育支援活動	300,000
*(注) 一般支援活動収入より充当	300,000	サッカー教室	300,000
収入合計	1,459,300	支出合計	2,958,900

2015年度 活動別基金予算増減表

(自 2014年9月1日 至 2015年8月31日)

(円)

	I. 一般支援活動	II. KEAF奨学金	III. 楓大学生奨学金	IV. 教育支援活動	合計
前期繰越高	366,515	2,460,319	797,201	0	3,624,035
当期収入予算	934,300	225,000	0	300,000	1,459,300
当期支出予算	1,243,100	1,021,200	394,600	300,000	2,958,900
次期繰越高予算	57,715	1,664,119	402,601	0	2,124,435

チュムリアップ・スオ ！！

(こんにちは！！)

変わりゆく国一新発見のいろいろ

久保田信一（理事）

9月30日～10月7日までの日程で、岡宮さんと一緒に奨学金並びに教科書・補助教材・事務用品等を届けてきました。

空港から首都プノンペンのホテルへの道は、1年前を思い起こすとかかなり整備が進んでいる様子です。ちょうど、夕方時のためか渋滞が凄まじく、車の数の増加にはとても驚かされました。

文具店に防犯カメラ

翌日、文房具店で教科書、教材教具を購入しました。教具や事務用品などを日本から運ぶのはとても大変ですし、こちらでお金を使うのも援助の一助になると考えるからです。

店の奥には防犯カメラのモニターがあり、4台のカメラが作動しているのに気がつきました。間口が広くない店で、このような設備を付けるとは想像していませんでした。この店では昨年、小学校を出た女の子1名を店員として雇いましたが、今年もう1名女の子が増えていました。似たような貧しい親戚筋の境遇の子のようです。

その後、私たちの現地活動の拠点になるネッルーンに車でむかいました。途中、行き交うトラック等の屋根に乗る人は皆無でした。規則が厳しくなったからでしょう。1時間半ほどのドライブです。

茶褐色の急流をフェリーで

次にフェリーでメコン川の対岸に渡ります（写真：いつも満車、満員です）。あまり待たないで乗れましたが、8分ほどかかりました。雨季が終わろうとしているのに、水位が少なくとも5～6mは上がり、茶褐色の急流でした。川幅が4～5倍にも見えました。

思い起こせば、9年前、このフェリー乗り場で日本の中古車をいくつか見かけました。ひとつは大阪市00局などの表示を消さずに使っていましたが、もうそ

んな風景は見かけません。

お湯の出るシャワー

ネッルーンのホテルはとても綺麗な5階建てのいわゆる新館です。お湯の出るシャワーになりました。

カンボジア人にとってシャワーは体を冷やし、涼しくするためのものですから、日本人（少なくとも沖縄の人は除いた方がいい）がなぜお湯のシャワーにそんなにこだわるのかわからないとのことでした。まして、暑い夏に日本人が熱い風呂に浸かるとは考えられないとも言われました。

新館にエレベーターを付けなかった理由は、今は必要がないから、必要になったらその時つけばいいとのこと、はっきりとした答えは返ってきませんでした。思うに、時々停電になるので途中で止まったりしたら、かえっておおごとになりかねないからでしょうか。「所変われば品変わる」ですね。

足にペデキュア

今回は奨学金・援助品を届けるのが主でしたが、プロモルプロム高校では、途中退学者の代わりの高校生7名（女4、男3）との面接を行いました。皆、真面目に夢や希望を語ってくれました。

うち3人は家にテレビ、携帯も3人が持っていました。1人の女子は素足にサンダルで、足の爪にペディキュアをしていました。サンダルだとおしゃれがよく見えていいのかも。

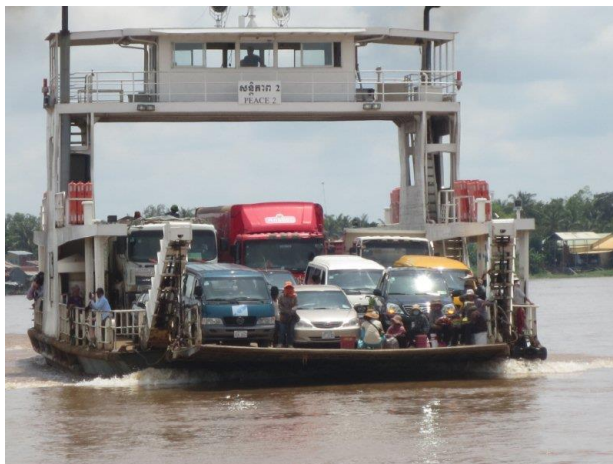
小学生に英語教育

図書教育の充実がうたわれだしました。図書館（図書室）を見せてもらいましたが、力の入れられる学校と入れたくても入れられない学校がありました。書籍の数はもちろん書架の不十分さと、今後の課題は多いです。

ある小学校では4年生から英会話をやるようです。英語を教えられる先生が小学校まで配当できないため、現在英語研修でなんとか教えられるような先生を養成中とのことでした。

カンボジアに着いてみて分かったことでしたが、学校（小中高）は1カ月ほど休みでした。聞いてみると、

〈次頁下段へ続く〉



《カンボジア昨今》

大虐殺調査・研究の複合施設

慰霊、未来への希望も託す
プノンペンに 2018 年完成へ

カンボジアの首都プノンペンにポル・ポト恐怖政治の犠牲者の霊を慰めるとともに、大虐殺の実相を調査・研究する学術研究施設や歴史博物館が入る複合施設を中心に、スポーツやレクリエーションの施設も加えた総合公園を建設する計画が進んでいる。2015 年から建設をはじめ、同 18 年の完成を目標としている。

計画推進の中心にいるのは、大虐殺の資料収集に当たっているカンボジア文獻センター（CDC、非政府組織）のヨーク・チャン所長。チャンさんはこの施設を暗いジェノサイド（大虐殺）の歴史を学ぶだけでなく、カンボジアの明るい未来につなげる希望の場所にしたいと考えて計画を練った。チャンさんは斬新な感覚で国際的に知られる建築家ザハ・ハディードさんにデザインを依頼、その思いを託した。

ハディードさんはイラク生まれで英国在住、世界各地の著名な設計コンテストで賞を取り、東京オリンピック主会場になるに代々木国立競技場改修のデザインにも採用されている。写真はハディードさんがデザインした複合施設の完成予想図。

建築資材はカンボジア産の木材を使用。カンボジア文明を象徴するアンコールワット建築をイメージしている。必要な電力は豊富な太陽光で賄う。建物は 3 階から 8 階までで、一番高い部分は地上 88 メートル。

（4 頁からの続き）高校卒業の資格試験の成績があまりにも振るわなかったもので、再試験をするための期間になっていました（12 頁の記事を参照ください）。それにしても児童生徒・学生のいない学校ほど、寂しいものはありませんね。

ネッルーンのホテル近く、毎日夕食をとる小さなレ

ここにポル・ポト恐怖政治の調査・研究にあたるスルーク・リット研究所が置かれ、既に 100 万点の資料を収集したチャンさんの CDC もそこに加わる。ポル・ポトの抑圧のもとで知識人たちは、密かに乾燥させた木の葉を紙代わりに使い、情報を交換したり文化を守ったりした。「スルーク・リット」とは「木の葉の力」という意味だという。

同研究所にはカンボジアや周辺の東南アジア諸国の大虐殺や紛争、人権問題などを研究する大学院が設置されるほか、歴史博物館も併設される。周辺にはフットボール競技場、植物園、果樹園などが建てられる。

建設費用は米英仏などの欧米諸国をはじめ世界各地からの寄付が当てられる。建設場所はポル・ポト時代、再教育キャンプにされていたプノンペン市南部の高等学校を移転し、その跡地を政府が提供した。

チャンさんはポル・ポト勢力がカンボジア全土を制

圧した時は 15 歳。家族はほとんど犠牲になったが、大虐殺を生き延び、難民として米国に渡った。内戦が終結に向かい、帰国、国連の支援機関で働いた後 1995 年に米イェール大学が開設した文獻センターの所長に就いた。プノンペンの観光

コースには、ポル・ポト時代に政治犯を収容し、拷問の場となったトゥールスレン政治犯収容所と、2 万人におよぶ彼ら政治犯を処刑したキリングフィールドがはいっている。だが、どちらもあまりにも陰惨で、一般の観光客が足を向けるような場所とは言えない。

スルーク・リット研究所を中心にした総合公園ができれば、新しい観光スポットに加えられそうだ。

ストランの小学生ぐらいの可愛い女の子がカタコトの英語で岡宮さんに話しかけてきました。顔なじみの仲でした。私にも今ある自分の力一杯の表現で話しかけてきました。別れ際には、私たちにかわいい絵をプレゼントしてくれました。

彼女のような積極性を育み育てる外国語教育が、これから望まれるのではないのでしょうか。



ありがとうございました

(2014年9月1日～11月30日)

年会費、寄付金、奨学金を振り込みくださった方々に心からお礼申し上げます (敬称略させていただきます)

(埼玉)	(東京)	(神奈川)	(神奈川)	(長野)	(東京)
(奈良)	(神奈川)	(千葉)	(東京)	(東京)	(東京)
(東京)	(東京)	(東京)	(東京)	(神奈川)	(東京)
(埼玉)	(埼玉)	(東京)	(埼玉)	(東京)	(東京)
(東京)	(千葉)	(東京)	(東京)	(福岡)	(東京)
(神奈川)	(大阪)	(千葉)	(東京)	(東京)	(東京)
(東京)	(神奈川)	(東京)	(埼玉)	(東京)	(東京)
(東京)	(長野)	(兵庫)	(東京)	(京都)	(神奈川)

(神奈川) ※お名前は個人情報なので伏せて掲載しています。

◇物品支援ありがとうございました

さま (東京) : 衣類やカバンなどダンボール 3 箱。一部の冬物はカンボジアでは着ないので、バザーに出して現金化し現地支援にあてます。

高卒・大学進学資格

全国統一試験でカンニングが発覚

カンボジアの教育制度は仏植民地時代の名残で、高卒および大学入試の資格を得るためには全国一斉の統一試験をパスしなければならない。この試験でカンニングが横行していることが分かり、試験をやり直す騒ぎになっている。

今 15 年度の奨学生を決める面接のための 6 月訪問のさい、高校の先生から統一試験の成績が全国的にあまりにも悪く、3 割しかパスしなかったので再試験が行われるという話を聞いた。KEAF が支援している農村の高校でも 6、7 割は合格するのが普通だったのに、おかしいことだと思った。だが先生たちの話しも要領を得ない。

帰国後しばらくしてNHK衛星テレビの番組などで、カンニングが広がっていることから問題管理や試験監督を厳しくしたところ、合格者激減の事態になったと分かった。

カンボジアの新学年は 9 月からで、通常は 10 月には授業が始まる。しかし前期分の奨学金を届けるため 10 月早々に学校を訪問したところ、再試験の準備のためにまだ授業に入っていなかった (4～5 頁参照)。この試験が終らないと高校卒業も大学入学も決まらないのだから、カンボジア社会を揺るがす大



写真：プレアンドン高校の 15 年度新奨学生。彼らは 3 年後に統一資格試験が待っている。向かって左端の後列は KEAF 池内秀樹さん、前列はガイドのソワンさん。

スキャンダルだ。

NHK 報道によると、プノンペンでは先生が事前に問題を入手して教え子を集めて特訓をしたり、試験場で監督の先生が持ち込まれたカンニングペーパーを見ないふりをする、といった不正が横行していた。首都や大都市の高校では合格率が 9 割といわれたが、カンニングのおかげだったことになる。

KEAF が支援する大都市圏から遠く離れた農村の高校ではどうか。継続的に教科書支援をしてきたプロモルプロム高校では 5 割に届かなかった合格率が 2000 年から 7～8 割に急上昇している。われわれは教科書支援の効果と喜んでいた。大都市のようなカンニングができる条件はないと思えるのだが、再試験の結果が気になる。

※写真つき奨学生紹介の 6～11 頁は個人情報保護のため省略